

しかけが必要

- 会いたいな。会って話したいね
- 必要感のある話題・活動
- 子どもたちに切実感がほしい
- 共通体験を仕組み、交流の柱に
- 活動が盛りだくさんすぎない？しぼる

- 相手に興味を持たせて、自分も知ってもらいたいと思わせる。
- ゴールを見据えた、見据えさせた活動を仕組む

活性化という点で(1)

- お互いに名前呼び合える交流
- しゃべっているだけではダメ、お互いに知りたいと思わせなければいけない。

活性化という点で(2)

- テーマをいくつか考えて、あとで発表会を仕組む(たとえば祭りのちがいをグループごとに調べてちがいをお互いの学校ごと発表する)
- 課題を選択するのは意欲につながる。なにかを選ばせたい。興味のあることに取り組ませたい。

自然の家で・・・と、そのあとで

- 1, 各教室で地域の差を調べさせていく(特産物:水生生物:お祭りなど)
- 2, 自然の家で、それぞれを鮎・犬のグループごとに互いに調べたことを発表し合う
- 3, その後各教室にもどって聞いてきたことをクラスみんなに報告・発表し合う
- 4, それを、気仙沼に知らせる
1.5, 焼き芋パーティーで楽しむ

テレビ会議で掲示板で・・・

- 各グループ(水生生物・祭り・特産物等)ごと、ゴールをイメージして互いに準備していくことなどを確認する。
- 黙っちゃうと、困る。聞き手は、声に出したうなずきとかが必要。情報モラル系の話等必要なスキルについては指導をしていきたい

ということで・・・2学期の頭に・・・

- 2学期最初にネタふりをする。グループ分けのきつかけと情報を教師側から与える
まつり・・・「犬川の祭りは相撲を奉納するらしい。鮎貝は獅子舞だよ。奉納相撲ってどんな物か知りたくない?」「すもうって、あの、おすもう?」「女の子も、すもうやってるらしいよ!」「ええっ!」「(ナイス・リアクション)」「お祭りって言えば出店だよ。」
「出店のちがいつあるのかな?」
特産物・・・「犬川小学校から〇〇〇が送られてきたよ!何で、犬川の特産物って〇〇〇なの?」「A君の家ではリンゴを作っているよね。Bくんの家はぶどうだし、ずいぶんちがうね。」「なんてだろ〜。」
- 水生生物に興味を持たせられるのか・・・不安

事前の準備

- 教師側でテーマのすりあわせと、おおよそのグループ分けの目安を持っておく。(グループの種類・人数)
- 児童が興味のある物を選択していく。
- 相手校とのかみ合わない部分が出た場合は、子どもたちに相談しつつ、教師側で振り分けていく。
- 事前にテレビ会議・掲示板を使って意見を交わしておく。
- 鮎・犬のポイントは「気仙沼の学校に調べたことをまとめて伝えよう。」
- 二つの学校で調べたことで「ちがいが」「共通点」を明らかにして、それをまとめていくことを確認する。

11月吉日当日の動き

- 最初にグループごとに焼き芋の準備をして焼いちゃう。
- その間に持ち寄ってきた、情報をまとめ上げる作業をする。(気仙沼に伝える情報を新聞やポスター等の形に作る)「やったあ！完成だあ」
- できたらお芋をめしあがれ！
- ビデオを撮影して、ビデオレターも楽しいかも・・・

キャスティング

- ナレーション(関口さん)
- 鮎貝の先生(東海さん)
- 犬川の先生(池田さん)
- 鮎貝の生徒A(佐藤さん)
- 生徒B(門傳さん)
- 生徒C(齋藤さん)
- 犬川の生徒A(金さん)
- 生徒B(竹田さん)

そして・・・その後の課題

- 気仙沼からのアンサーバックが楽しみ
- どこで活動の「しめ」にするかが課題(どこを、何を落とすところにするの?)
- 振り返って、自分たちの活動の足跡を確認する(コミュニケーション力の高まりを確認する・・・)ことができるかな。